

祇園小学校 校長だより（第52号） 令和元年度第17号 令和元年12月2日

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

「あいさつ」あれこれ

あいさつの意義については、10月3日付けの第48号でも紹介いたしましたが、礼儀正しく、真心のこもった気持ちのよいあいさつができるようにしていきたいものです。以下、私が見たり聞いたりした中から、いくつかご紹介いたします。

- ①相手の顔（目）を見てあいさつ ②帽子を取って立ち止まってあいさつ
- ③前の子のあいさつが終わるまで待って心を込めてあいさつ
- ④道行く人に明るい笑顔であいさつ ⑤横断中に止まってくれた車（運転手）にあいさつ
- ⑥登校・下校時間以外にも顔見知りの人にあいさつ

大人と子どもが明るいあいさつを交わす場面はいいものです。今後もあいさつの輪を広げていきましょう！

交通安全

本校校区は、車がよく通ります。速い速度で車が行き交う所もあれば、狭い道を車と歩行者が通る所もあります。基本的には歩行者優先なのですが、歩行者の側にもルールとマナーが求められます。狭い道（五差路へ下るグリーン舗装の歩道など）や、車との接触の恐れがある歩道（裁判所前の反対側の歩道など）は、特に要注意です。ほかにも、鉄道の踏切を含め、注意すべき所が多々あります。学校・家庭・地域が一体となって、今後も交通安全に気を配っていきたいと思っています。

祇園歴史の旅（その52）「鉄道開通」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

「1872年（明治5）、日本の近代化の象徴である鉄道が、東京の新橋と横浜間に開通しました。その後、鉄道は全国に広がり、1897年（明治30）には早岐までつながり、翌年には佐世保まで完成して、佐世保線が開通しました。やはり軍港への物資と人の移動が、鉄道を敷く大きな目的でした。鉄道開通によって、江戸時代には1ヶ月近くかかっていた東京までの距離が、鉄道で3日程度になったのです。これが近代化の威力で、今では飛行機で数時間の距離になってしまいました。

一方、佐世保駅より北には、中倉万次郎らが設立した佐世保軽便鉄道株式会社により、※軽便鉄道が建設されました。1921年（大正10）までに、相浦から柚木、大野から上佐世保が開通し、石炭の輸送や住民の足として活躍しました。1936年（昭和11）には全線が国鉄（現JR）に買い上げられ、線路幅を広げ、市街地部分の高架化を行い、国鉄伊佐線（のちの松浦線）となりました。」

※「軽便鉄道」…線路の幅が狭く（普通の鉄道は1067mmあるが、軽便鉄道は762mmしかない）、小型でスピードも遅いが、鉄道に比べて安く簡単に建設できるため、明治時代に全国に普及した。

次回は、「佐世保水道史」と題して、佐世保の水道創設などをご紹介いたします…。